

税金は国民からの奪取か

八重瀬町立東風平中学校3年 比嘉 文香

「はあー？また税金あがるん？収入は増えないくせに税金ばっか増えていつて。政治家ってちゃんと国民のこと考えてくれてるんかなほんまに。」と、尊大な態度でテレビに映る政治家たちを前に、母はふてくされた口調で言った。二〇一九年八月、財務省は同年十月から消費税率を十パーセントに引き上げると発表した。当時、国民の大多数の人間が、この増税に消極的な態度をとっていた記憶がある。私も母も、後ろ向きな気持ちをもっていた人間の一人だ。

しかし、それから四年後。私たちは思いもよらない形で税金のありがたみを知る事となる。

今年の七月下旬、学校は夏休みとなり、いよいよ受験勉強に本腰を入れ始めた時期だった。あの日は朝早くから夜遅くまで勉強し、疲れてすぐに眠りについた。深夜三時頃だっただろうか。突然、激しい腹痛に襲われた。お腹の痛みは強くなる一方で、私と母はすぐに病院へ向かった。内科での診察のあと点滴と痛み止めを投与されたが、私には全く効果が無かったため医師にもっと詳しい検査をすることをすすめられた。そこで、CT検査、MRI検査、腹部エコー、血液検査を行った。

一時間ほど経ただろうか。医師は私と母にこう告げた。

「卵巣出血の疑いがあります。かなり出血の量が多いため、明日当院の産婦人科を受診してください。」

母は顔色を失っていた。検査結果の詳しい説明をされた後、産婦人科受診の予約手続きを済ませ、私と母は会計へと向かった。だがそこでも度肝を抜くような言葉を聞いた。

「お会計、四万九千六百三十八円です。」

母が保険適用にはならないのかと聞くと、役場で医療費助成金受給資格の申請をすると、医療費免除になるとの情報を聞いた。この情報は私も母も聞いたことが無く、受付の方に言われるがまま、役場へ向かった。役場の受付の方に事情を説明すると児童家庭課という課に案内された。案内が児童家庭科の方に代わり、再び事情を説明した。係員さんは真摯に私たちの言葉を聞いてくれた。この時の係員さんの言葉がとても興味深いものだった為ここで紹介させて頂きたい。

「助成金受給って、入院している方だけではなく急患の方も利用できるんです。税金で賄われているんですから、もっとたくさんの人に知って頂きたいですね。」

この言葉は、明らかに私たちの税金に対する意識を変えた。さらに、増税されたことにより対象年齢が拡充したという。対象年齢が拡充したということは、その分、助けることのできる人も増えていくということだと身を持って知ることができた。幸い、私の卵巣は順調に回復しつつある。税金は、国民からの奪取などではなく、国民を守るためにあるものだと、この作文を通して世の中に伝えたい。